



一茶双樹記念館 俳句大会



俳人 小林一茶が生涯に50回以上も訪れた流山。
みりん醸造家 秋元三左衛門(俳号 双樹)を慕い訪れた地として「一茶双樹記念館」が誕生しました。俳句に造詣のあるこの地で開催する『一茶双樹記念館 俳句大会』の作品を募集します。

12月入選

対岸の工場夜景星月夜

美千子

虎落笛三歳ごしの訃報書く

御澤愛健

立冬の丹後の渡し風わたる

山崎寿仁

札所跡味噌作る香と大師さん

大高弘照

たらえふに託す言葉や年の暮

中田二三代

逆縁の膝の寒さや一茶の忌

貴甫

昨年より腹囲増やして毛糸編む

荒川溪舟

締めも時には大事日向ぼこ

大和久タマエ

人声の近く聴こゆる冬の山

池田節子

女体山登り終へたる爽気かな

杉山朝子

北川 選者
篠塚

昭久
雅世

俳人協会会員・流山俳句協会会長
俳人協会会員・流山俳句協会役員